



CONTENTS	
Nihongo-Kyōiku Tsūshin No. 59/SEP 2007	
■ 表紙・特集	1
『エリンが挑戦! にほんごできます。』 一この教材で伝えたい考え方—	
日本語国際センター 専任講師 築島 史恵	
■ 日本語の教え方イロハ 第5回	4
聴解	
■ 授業のヒント	6
“もっと”ことばで遊ぼう!	
■ 新聞・雑誌から見る現代日本 第27回	8
都会の暮らしと田舎の暮らし	
■ 本ばこ (新刊教材・図書紹介)	11
■ 文法を楽しく!! 第9回	14
現象描写・判断・働きかけ (2)	
■ KC (関西国際センター) 研修生の Nipponレポート 第9回	16
放送局の仕事	
* 本誌で、ルビが文字の下に付いているのは、紙や物差しなどでルビを隠して、漢字の読みの練習ができるようにするためです。	

『エリンが挑戦! にほんごできます。』

一この教材で伝えたい考え方—

日本語国際センター 専任講師 築島史恵

国際交流基金では、主として若い学習者を対象にしたDVD教材『エリンが挑戦! にほんごできます。』を制作しました。この教材は、「ことば」と「文化」、両方の学習に使うことができる教材です。この記事では、この教材をどのような考え方で制作したか、そして、どのように使っていただきたいか、述べたいと思います。



1. ことばの学習のために

—「日本語でできる」という自信と「自分のことを話す」という勇気を育てる

この教材で日本語をはじめ勉強するのは、少しむずかしいかもしれませんが、学校で勉強したり自分で教科書を読んだりした学習者が、勉強した日本語を実際に使う自信をつけたり、日本語で自分のことを話す練習をしたりするための教材です。大切な表現や文法も取り上げましたが、その勉強が目的ではありません。この教材では、各課で「できるようになってもらいたいこと」をタイトルにしました(これを、私たちは、「CAN-DO」のシラバスと呼んでいます)。各課のいろいろな場面で、日本語を「口に出す」経験をしてもらいたいと思っています。その結果、一つずつ、「日本語でできること」をふやすことができます。

(1) 勉強してきた日本語を使って、日本で生活する体験ができる

例えば、第4課「(コンビニで商品の) 場所を聞く」、第6課「(バスで) ねだんを聞く」、第8課「(ファーストフード店で) 注文する」など、多くの課で、日本の生活を体験することができます。できるだけ一般の高校生の日常生活を自然に取り上げるために、日本のいろいろな学校の高校生に、内容を相談しました。エリンと一緒に口を開いて、勉強してきた日本語が日本でも通じる実感味わってほしいです。

(2) 日本語を通して、自分から発信する自信や勇気を持つことができる

最初のころ、エリンも、一つ一つの場面で、とても緊張しています。でも、この教材では、勇気を持って自分のことを発信したり、積極的に相手のことを聞いたりすることを大切にしています。例えば、第7課「自分のしゅみを

On the Web

http://www.jpj.go.jp/j/japan_j/publish/tsushin/index.html

以下の記事はJFのウェブサイトのみにてご覧になれます。

- 日本語・日本語教育を研究する 第33回
ピア・ラーニング
早稲田大学大学院日本語教育研究科教授 舘岡 洋子
- 授業に役立つホームページ 第18回
YOMO YOMO にほんごを読もう
- 海外日本語教育レポート 第16回
日中友好大連人材育成センターおよび大連における日本語教育の現状
国際交流基金日本語教育派遣専門家 立花 秀正
- にほんごハローワーク 第9回
ベトナムの将来に備えて日本の医療を学ぶ
レティキム フェさん
看護師 (出身: ベトナム)

『日本語教育通信』 第59号

2007年9月発行

編集・発行 国際交流基金 日本語グループ
〒107-6021 東京都港区赤坂 1-12-32
アーク森ビル 21F
TEL. 81-3-5562-3525 FAX. 81-3-5562-3498
E-Mail. jfnckt@jpj.go.jp
編集協力
株式会社アーバン・コネクションズ

話す」、第15課「(お祭りで) 自分のきぼう (やりたいこと) を言う」、そして、第23課「(遊園地で) 友だちをさそう」などの課があります。また、例えば、第17課「はんたいのことを言う」では、「～けど」を使ってエリン自身の気持ちを言う状況にしたり、第18課「くらべて言う」では、「～のほうが」を使って、エリンが自分で二つのものを比べて意見を言う場面になりました。つまり、学習者が、受け身ではなく、自分の気持ちや意見を言って行動する機会を増やしています。この教材によって、日本語の学習にかぎらず、自分の国の生活の中でも、自分の気持ちを強く持つて話したり、自分から発信したりすることができるようになってほしいと考えています。

2. 文化の学習のために

— 「気づいたこと、発見したこと」を「考えたり話し合ったりする」きっかけを与える

2.1. 海外の学習者が知りたいこと

今回の教材制作のために、海外11か国で日本語を勉強している高校生約1100人とその教師約380人を対象に、日本の文化に関する知識や興味、映像教材に期待することについて、アンケートを行いました。その結果、日本について知りたいことや映像で見たいことについて、次のような3種類の回答がありました。

(1) 教科書に言葉で出ている「物」や「こと」を実際 の目で見たい

まず、日本の物や日本人の様子を見たい、知りたい、という回答です。例えば、高校生の一日の過ごし方、クラブ活動、塾、アルバイト、年中行事、交通機関、店、食べ物などです。

(2) 伝統的なものや歴史的なものを見たい

例えば、茶道、生け花、折り紙、式、寺、神社などです。「授業などで、それについて聞いたり見たりする機会が多いから、もっと全体を知りたい。」と答えた高校生と、「現在の日本もよく知っているが、それより伝統的なもののほうがおもしろい。」と書いた高校生がいました。

(3) 現代の日本、ありのままの日本を見たい

例えば、アニメ、まんが、企業、若者のファッションなど、新しい日本を見たい、知りたい、という希望もたくさんありました。

一方、高校生の中には、「知っている日本人」や「知っているアニメやまんが」などについて、教師より

ずっとたくさんの新しい情報を持っている高校生もいました。彼らは、授業では、自分でも入手できるさまざまな映像(アニメやまんがなど)自体を取り上げてほしいと考えているのではなく、自分達が得た情報や映像の背景にある日本人やその考え、それを作ってきた歴史など、より深いものを知りたいと答えていました。

表1 「知っている日本人」(A国の回答から)

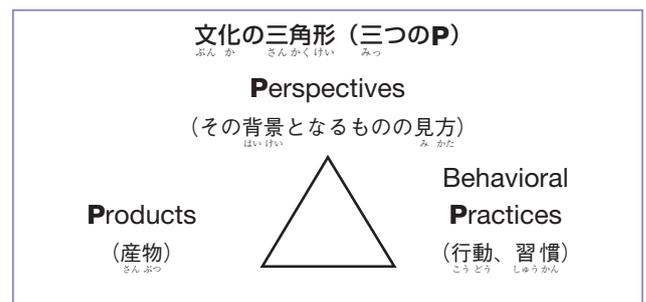
教師	学習者
小泉首相、 イチロー、夏目漱石、 プリンセス黒田、 宇多田ヒカル、 スマップ…	宇多田ヒカル、嵐、V6、浜崎あゆみ、 木村拓哉、上戸彩、スマップ、中島美嘉、 X-Japan、ミスチル、乙武洋匡、道場 六三郎、中田英寿、イチロー、ハード ゲイ、修二と彰、小泉首相、宮崎駿 ……

表2 「知っているアニメやまんが」(B国の回答から)

教師	学習者
ドラえもん、 クレヨンしんちゃん、 NARUTO、 ちびまるこちゃん、 名探偵コナン、 こぼちゃん、 忍者ハットリくん …	エヴァンゲリオン、美少女戦士セーラー ムーン、るろうに剣心、犬夜叉、 ワンピース、ヒカルの碁、キャプテン 翼、スラムダンク、テニスの王子様、 GTO、カードキャプターさくら、 フルーツバスケット、ガンダム、 デジタルモンスター、ポケットモン スター、遊戯王、ドラえもん、クレヨン しんちゃん、名探偵コナン、 NARUTO、Samurai Deeper KYO、 だあ!だあ!だあ! …

2.2. 映像で考えてほしいこと

この教材では、このようなアンケート結果をふまえて、言語の学習だけでなく、文化の学習にも使えるように、映像に入れるもの、取り上げるものを決めました。そのために、次のような三角形で、文化面のポイントを書き出しました。これは、アメリカの「ナショナルスタンダードズ」*で採用されている文化のあつかい方を参考にしたものです。そして、各課で示したい文化をこの三角形で整理しました。



例えば、「コンビニ」というトピックでは、まず、

Products (産物)には、コンビニの商品、お弁当、おにぎり・・・などと、コンビニにある物、コピー機、ATM、そして店員の制服などを書き出すことができます。次に、**Practices (行動、習慣)**には、24時間開いている、宅配便を送れる、払い込みができる、そしてお客さんが立ち読みをしている・・・などを書き出すことができます。そして、その**Perspectives (背景)**として、コンビニが本当に便利 (convenient < コンビニ) で、日本人の日常生活で大きな役割をはたしていること、日本のサービスやその考え、豊富なおそうざいやお弁当を買って帰って家で食べる人が増えていること・・・など、さまざまなものの見方につなげることができます。この**Perspectives (背景)**の部分は、例として、私たちが考えられる見方をあげて整理しましたが、本当は、学習者自身に考えてもらいたい部分です。ですから、教材では、できるだけ制作者の価値判断や評価を入れないで、客観的にたくさんの映像を入れる努力をしました。

教材では、一つのトピックを一つの課で中心的に取り上げましたが、ほかの課で出てくるものも総合的に見ると、もっと大きい視野を持つことができます。例えば、携帯電話は、第14課「よそうを言う・携帯電話」で多く取り上げられています。「基本スキット」では、待ち合わせに遅れた友だちからメールが来ます。「応用スキット」では、友だちと友だちが好きな男の子の写真を携帯電話でとってあげます。「見てみよう」というコーナー（このコーナーは、台本を作らず、実際の高校生に話を聞きながら、できるだけ彼らの生活を再現するようにしました。）では、日本の高校生がどんなふう携帯電話を使っているかを見ます。「やってみよう」というコーナーでは、絵文字や顔文字を使ってメールを書きます。でも、携帯電話は、ほかの課にも出て来ます。例えば、第1課の「見てみよう・高校生の朝」や第2課

の「見てみよう・高校生活」では、女子高生が生活の中で、実際に携帯電話を使っています。第9課の「応用スキット」では、スポーツクラブにいる姉妹に、母親から電話がかかってくる。このように一つのトピックでも、多角的な視点で多くの映像を入れ、学習者が自分の目で「気づいたり」、「発見したり」、そして、「考えたり」、「まわりの人と話したり」するきっかけになるような教材を作りました。2.1.に書いたアンケートでも、高校生自身が「単に表層的な事象だけでなく、考え方や人間関係を知りたい」「高校生の人間関係、考え方、価値観などがわかる映像が見たい」「似ているだろうと決めてかからないで、ありのままを見せてほしい」などと書いています。

3. この教材で伝えたいこと、願っていること

ここまで述べてきたように、この教材は、海外で使われることをとても大切に考えて制作しました。特に中学生や高校生の日本語学習の現場は、多様な学習目的やカリキュラムがあって、制作者側から、「こういうことを知りなさい」「こういうことを勉強しなさい」と決めることはできません。もちろん、教材はいろいろな制限があるので、完全に自由に日本を伝えることはできません。でも、この教材は、来日や将来の仕事のために日本語を勉強する学習者だけでなく、自分の成長のために、日本語を学んでいる学習者にも利用してもらいたいと強く思っています。日本語の学習を通して自信を育てたり、日本の映像を通して日本や自分の国、日本人や自国の人、自分自身について発見したり、考えたり、議論したりして欲しかったらいいと思います。そして、自分の国も日本も、両方、好きになってほしいと願っています。

* ナショナルスタンダードについては、国際交流基金ホームページの「日本語教育別情報」シラバス・ガイドライン一覧☆北米に、その翻訳がアップされています。

(http://www.jpff.go.jp/j/japan_j/oversea/kunibetsu/syllabus/syllabus.html)

DVD で学ぶ日本語 vol. 1～3

エリンが挑戦！ にほんごができます。

この若者向け日本語学習教材は、留学生エリンと一緒に楽しく勉強しながら、「にほんごができる」という勇氣と自信を持つことができるようになっていきます。実際に使われている本物に近いことばを重視し、若い世代が興味を持つ場面やトピックを選定。異文化、多文化についての視野を広げられるような映像を満載に盛り込みました。また、1つ1つのコーナーは短い時間で構成されていますので、目的に合わせて使うことができます。



vol.1 DVD 1 枚付 好評発売中！
(978-4-89358-624-7)

vol.2 DVD 1 枚付 10月発売予定
(978-4-89358-625-4)

vol.3 DVD 2 枚付 10月発売予定
(978-4-89358-626-2)

各B5判/各2,520円(税込)

ご注文・お問い合わせは

にほんごの凡人社

〒102-0093
千代田区平河町1-3-13 菱進平河町ビル8F
TEL: 03-3263-3959 FAX: 03-3263-3116
info@bonjinsha.com
<http://www.bonjinsha.com>

国際交流基金